2021.02.03

松沢哲郎のこと(6)

小嶋祥三

松沢とは 25 年ほど霊長研の同じ部門で一緒に過ごした。いろいろあったが、今回のことに関連して、思い出されることもある。

「桃李不言 下自成蹊」はわたしの出身高校名の由来だが、この話を彼にした時、彼は少し複雑な反応をしたことを思い出した。また、松沢はよく太く、細く、長く、短く生きる、ということを話題にした。彼の関心事だったのだろう。わたしはこの種の話題に興味がないので、細く短く生きるので結構、と返事をしたと記憶している。彼はわたしが、少なくとも外的な目標を持たず、ノホホンと生きているのが気になったのか、その後このわたしの返事を何回かからかった。なぜ、そんなにしつこく話題にするのか分からなかったが、今思うと、長短は知らないが、彼は少なくとも太く生きようと決めていたのだろう。

松沢は「賞賛と栄誉のトレッドミル」を走り続けたように思える。実際に多くの賞賛と栄誉を得たが、一方で、今回の不祥事の直接的な原因となった負の側面も育ててしまった。この二つの側面は不可分なのだろうか、と考えてしまう。以下は、DSM-5 の自己愛性パーソナリティの診断基準である。5 つ以上該当すると問題があると考えられるようだ。

自分の重要性および才能についての誇大な、根拠のない感覚

途方もない業績、影響力、権力、知能、美しさ、または無欠の恋の空想に捉われている。

自分が特別かつ独特であり、最も優れた人々とのみ付き合うべきだと信じている。

無条件に称賛されたいという欲求。

特権意識。

目標達成に他者を利用する。

共感の欠如。

他者への嫉妬および他者が自分を嫉妬していると信じている。

傲慢、横柄。

わたしは医者でないので、松沢の性格を診断する気はないが、当てはまる項目があるように思う。

松沢のような性格の者は、どのような職業に就けばよかったのだろうかと思うことがある。科学には向いていなかったのではないか。自分が輝くために、事実を曲げてしまう危険があるので。むしろ、感性を生かせるような仕事の方が向いていたのではないだろうか。人生 100 年。まだ先は長い。トレッドミルを下りた現在、かれは自分の内部に眼を向けたらどうだろうか。それとも、またトレッドミルに乗るのだろうか。